

発掘現場から⑦

茶畑六反田遺跡の調査く雨ニモ負ケズ雪ニモ負ケズく



雪かきをしてからの発掘作業

今年の冬はいつになく寒い冬です。積雪量は列島各地で記録更新続きます。鳥取県でも例年よりも早く、12月から非常に多くの雪が降りました。そして名和調査事務所では、冷たい雨や雪が降る中、寒さに負けず、発掘調査をしています。

発掘だよりは、茶畑地区にある茶畑六反田遺跡を紹介いたします。茶畑六反田遺跡はこれまで2回の調査が行われており、弥生時代や鎌倉時代の集落跡のほか、平安時代の田んぼの跡などが見つかっています。

今回の調査は10月から始まりました。まず、現在の地層を重機で剥ぎ取って、江戸時代の地層の調査を行いました。この地層からは溝や穴が見つかりましたが、あまり多くは見つかりませんでした。そして、次に鎌倉時代と思われる地層の調査です。この地層からは、平行する幾条もの浅く細い溝の跡が見つかりました。これは畠はなの畝うねの跡と思われるます。つまり、昔の人が作った畠の畝の高いところ

は、後に削られてしまい、低い部分のところだけ浅く溝の跡のように残ったものです。このような跡は、鳥取県では茶畑六反田遺跡のほか、長瀬高浜遺跡（湯梨浜町）や上伊勢第1遺跡（琴浦町）、錦町第一遺跡（米子市）などで見つかっています。昔の人たちはこの畠で何を作っていたのでしょうか。



見つかった畠の跡

茶畑六反田遺跡の発掘調査はこれからもまだまだ続きます。さらに地層を掘り下げ、古い時代の調査をします。その調査ではどのようなものが見つかるのでしょうか。楽しみは尽きません。

鳥取県埋蔵文化財センター名和調査事務所
〒689-3205 西伯郡大山町西坪字中松堀 179-5
電話 0859-54-2671